

回 答

5 番 小泉 宣子 議員

本市の小中学校における各種支援員の配置数と活用状況についてお答えします。

本市においては、現在児童生徒支援員が 107 名、図書館支援員が 19 名、外国語児童生徒支援員及び部活動指導員がそれぞれ 3 名、複式学級支援員が 2 名、放課後学習支援員が 93 名、日本語学習支援員が 5 名、それぞれ各小中学校に配置されております。

状況としては、児童生徒支援員は、小学校 1 年生や特別な支援が必要な児童生徒を中心に、各学校の実情に応じた柔軟な支援、図書館支援員は、児童生徒の読書意欲の向上の支援、外国人児童生徒支援員は、日本語の支援が必要な児童生徒への学習や生活の支援、部活動指導員は部活動において専門的な技術指導、複式学級支援員は、複式学級における学力向上の支援、放課後学習支援員は、学習につまずいている児童生徒の個別支援、日本語学習支援員は、分かりやすい日本語を使っの学習支援に、それぞれ従事しております。

次に、各種支援員の配置による効果と課題への認識についてお答えします。

各種支援員の配置により教職員の負担軽減を図り、子どもと向き合う時間が確保されることで、教育の充実と質の向上といった効果を上げているものと考えております。

その一方で、多様化する児童生徒の表れ等に合った対応が求められることから、多様な児童生徒に対応できるスキルの確保が課題であると考えております。

次に、特別支援学級を担当する教員のスキル向上とサポート体制についてお答えします。

本市では、多くの特別支援学級担任が経験豊かで専門的なスキルを身に付けておりますが、増加する特別支援学級にその人数が追いつかず、経験の少ない担任を配置することとなり、その育成が急務であります。

教員のスキル向上につきましては、特別支援学級を担当する市内の教員相互で研鑽を重ねるとともに、年間 3 回の研修や授業研究等、専門性向上に努めております。

また、サポート体制といたしましては、教職員研修センターによる新任担任への支援と年 2 回実施する医師や臨床心理士等による専門家チームの巡回相談を実施しております。

不登校児童生徒の実態と進路状況及び進路未決定者へのサポートについてお答えします。

令和元年度の不登校児童生徒数は、小学校 102 人、中学校 201 人であり、平成 30 年度と比較して、小学校は 21 人増、中学校は 3 人減となっております。

また、進路状況といたしましては、中学 3 年生の不登校生徒数 64 人のうち、進学 54 人、就職 1 人、進路未決定者 9 人となっております。

進路未決定者に対するサポートといたしましては、その状況に応じて学校や青少年教育センターが相談に乗り、本人の希望を尊重しながら、社会的自立に向けた支援を実施しております。

今後も、各学校と青少年教育センターが情報を共有し、進路が未決定のまま卒業した生徒の相

回 答

談に乗る体制を維持してまいります。

次に、スクールソーシャルワーカーの配置数と活用状況についてお答えします。

本市においては、県教育委員会から派遣されたスクールソーシャルワーカー３名が配置されております。

その活用としては、学校からの要請を受け、ケース会議への参加や家庭訪問、関係機関との情報交換を行うなど、児童生徒を取り巻く環境に直接働きかけることで問題解決を図っております。

次に、スクールソーシャルワーカーを配置することで得られる効果と課題への認識についてお答えします。

配置による効果といたしましては、学校だけでは対応困難な事例にも関係機関との円滑な連携が図られることで、児童生徒を取り巻く環境への働きかけが可能となり、児童生徒が抱える生活上の課題の改善につながるものがあげられます。また、教職員につきましても、困難事例に対してチームでの対応が可能となり、負担軽減につながることもあげられます。

課題といたしましては、より積極的な活用や学校との連携に余地があると考えております。